

トーストマスターズインターナショナル
ほらふきコンテスト 審査用紙



審査事項	配点				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	優秀	優	良	可										
内容 30	スピーチの展開 導入、盛り上がり、ク ライマックス、展開、滑 らかさ	30	22-29	13-21	0-12									
話し方 55	スピーチの技術 誇張、皮肉、駄洒落、 予期せぬひねり、ユー モア、ドタバタ表現な どの効果	25	18-24	11-17	0-10									
	身体表現 見た目、ボディランゲー ジ	15	11-14	7-10	0-6									
	声 柔軟性、大きさ	15	11-14	7-10	0-6									
言葉遣い 15	適切さ スピーチの目的と聴衆 に合わせた適切な言 葉、文法、発音、言葉の 選択	15	11-14	7-10	0-6									
合計得点 (100点満点)														

(切り取って集計係に提出してください)

注意: 1位、2位、3位すべてに投票しないと無効になります。

ほらふきコンテスト 審査委員投票用紙

出場者氏名

得点(集計係のみ使用)

1位 _____

1位 3点

2位 _____

2位 2点

3位 _____

3位 1点

審査委員署名

審査委員氏名(活字体)

(2013年7月改定)

ほらふきコンテスト審査基準

内容(30%)

スピーチの展開とは、聴衆にわかりやすいようにアイデアをまとめることを言います。ほらふきスピーチは、まず瞬時に聴衆の注目を引きつけます。そして盛り上がりを見せながらスムーズにクライマックスまで持って行き、結びにつなげます。

話し方(55%)

スピーチの技術とは、さまざまな「ほらふき話の技術」の使い方です。これには、誇張表現、皮肉、駄洒落、ユーモア、予想外のひねりなどが含まれます。これらの技術は、ほらふき話の命とも言えるものなので、巧妙にスピーチに盛り込まなければなりません。

身体での表現が、効果的なコミュニケーションの一端を担います。スピーカーの見た目、話の内容がさらに効果を増します。ジェスチャーや表情、立ち位置などの工夫など、ボディランゲージを用いることで話が伝わり易くなります

声は、メッセージを運ぶ音です。声は柔軟性に富み、強調のために高さを変化させ、また速さや大きさもバラエティーに富んでいる必要があります。良い声は、はっきりと聞こえ、言葉も理解しやすくなります。

言葉遣い(15%)

言葉の適切さとは、スピーチの目的やその場の聴衆に合わせた言葉を選択することを指します。考えを明確に理解する手助けとなるような、場にふさわしい言葉を選ぶことが必要です。スピーカーは文法的に正しい言葉を正確な発音で話すことにより、使っている言葉に熟達していることを示すことができます。

審査委員倫理規定

1. 審査委員は、コンテスト出場者の1位、2位、3位を選ぶ際に、いかなる偏見や先入観の影響も受けないように意識しなければなりません。どのコンテスト出場者についても、所属クラブ、エリアを考慮してはなりません。出場者の年齢、性別、人種、信条、出身国、職業、あるいは政治信念も考慮してはなりません。最大限の客観性が求められます。
2. 審査委員は、コンテスト出場者のスピーチの時間を測定しないものとします。審査を行なう際には、スピーチが時間不足あるいは時間超過となり得る可能性を考慮しません。
3. 審査委員の言動は、コンテスト規則と審査基準に従わなければなりません。コンテストを公に批判してはならず、得点、順位の公表はコンテスト運営方針に従った方法でのみ行なうものとします。